

平成 28 年度 公民館主催事業計画書

公運審提出日 12 月 21 日

No.	実施館	事業名 (講座の名称)	事業目的	事業の達成目標	期間・回数	学習内容	主な講師
例	〇〇 公民館	〇〇講座 「〇〇〇〇〇」	〇〇〇		〇月〇日～ 〇月〇日・全 〇回		〇〇 〇〇氏 (〇〇〇〇大 教授) 他〇〇名
1	ひばりが 丘	教育講座 「今日学校に行き たくない」と言わ れたら… (中原小学校施設 開放運営協議会 共催)	学習・自己 実現	「学校に行きたくな い」という子どもに、 親(大人)として何 ができるのかを課題 提議し、不登校にど う向き合い、地域で はどう対応できる かを考える	平成 29 年 2 月 1 日(水) 10 時～12 時	①他者の意見を聞き、自分の意見を述べる話し合いの場から、「学校に行きたくない」という思いに、原因を探りながら当事者にどう寄り添うかについて考える。 ②不登校はどの家庭でも起こりうるという当事者意識を共有化した上で、自分又自分たちに何ができるかを考える機会とする。	石井志昂(いし いしこう) 不登 校新聞社 編 集長
2	田無	社会問題講座 ～子育て世代、ど う生きる?～	学習・自己 実現	どのように生きたら よいか迷う子育て世 代にとって、労働や 育児への閉塞感を払 拭し、自己の生きか たに前向きに向き合 えるようなきっかけ を作ることを目的と する。	2 月 11 日 (土)～3 月 11 日(土) 10 時～12 時 全 5 回	① 豊かな心を持とう～自分を見つめる、音楽という切り口～ ② 自分の可能性を探ろう～好きなことで、創業したら～ ③ 楽しみをカタチにしよう～ヒト・モノ・コトの交差点～ ④ 笑っている親になろう～「イクボス」が笑顔をつくる～ ⑤ みんなの「わ」～えほんうた・あそ	西村直人(NPO えほんうた・あ そびうた代表 理事) 他 3 名

						びうたライブ、まとめの「わ（輪・話・和）」～	
3	柳沢	編集講座 「地域雑誌『谷根千』がやってきたこと・できたこと～地域誌でまちづくり」	地域づくり	地域雑誌『谷中・根津・千駄木』の実践から、まちづくりにおける地域誌の役割について考える。	2月23日・ 3月23日 各木曜日 全2回	① 『『谷根千』がやってきたこと』 ② 実践編・やってみよう	山崎範子氏 (編集者。元『谷中・根津・千駄木』発行人)
4	柳沢	郷土史講座 「御門訴事件を知っていますか?～明治初期の上保谷新田で起きたこと」	学習	平成28年度の重点施策のひとつである「届ける社会教育」の一事業として実施する。 新町地域(旧上保谷新田村)で、この地域の歴史「御門訴事件」を学ぶ。	2月28日～ 3月14日 毎週火曜日 全3回	① 上保谷新田の開発 ② 御門訴事件について ③ ④ 御門訴事件関係個所のフィールドワーク	飯畑幸男氏 (「御門訴事件を伝えていく会」会員) 他2名
5	柳沢	地域防災講座 「みんなでいのちを守り、助けあうために」	地域づくり	要配慮者や地域で孤立しがちな人も視野に入れた地域の防災について考える。	3月2日・ 16日 各木曜日 全2回	① 多様性配慮と男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営ゲームを通して考える。 ② 防災・減災の視点から柳沢駅周辺のまちを歩いて考える。	青木千恵氏・日向野みどり氏 (特定非営利活動法人・男女共同参画おおた)

6	柳沢	若者の就労を考える講座	地域づくり	働き方をめぐって起 きつつある変化を考 察し、若者が希望を 持って就労できる地 域づくりへの道を見 出す。	平成29年2 月18日～3月 11日 土曜日 全4回	①映画鑑賞を通して若者の状況を考える ②勤労者の視点から高度経済成長期を振り返る。 ③「承認欲求」などのキーワードを手がかりに、 働き方の現状と将来を考える。 ④問題を整理し、グローバリゼーション状況下で の展望を探る。	大内俊（国際経 済学研究者） 町田栄一郎（三 幸自動車社長） ほか2人
7	ひばりが 丘	親子講座 ユング 心理学 「コラージュを作 ろう！」	学習・自己 実現	デジタル化が進み人 間関係が希薄になっ ている現代社会。ユン グ心理学を学びその 手法を使いながら、無 意識の中にある自分 を知ること、自分ら しい生き方や親子関 係を見直すきっかけ をつくる。	平成29年3月 29日（水）・30 日（木） 午前10時～12 時	雑誌の切り抜きなどを自由に貼り、コラ ージュなどを作成する。 作品を見ながら、作品の中に隠されてい るメッセージを読み取る。（ユング心理 学） 自分では気が付かない、「親子関係」や「も う一人の自分」を発見する。	伊賀 順子 東京ユング研究 会相談室、およ び婦選会館心の 相談室のカウン セラー。